



「田村明を偲ぶ会」配布資料（森日出夫写真・町口忠デザイン）から

研究会の目的

- 1 .都市プランナー田村明たちが成した「まちづくり横浜の 総合化」の成果と仕組みを、次世代に伝える。
- 2 .まちづくり横浜に関する情報を収集・整理・公開し「まちづくり横浜」に関する研究を促進する。

(活動の四本柱)

- ① 関係者からの聴き取りを中心とする研究会の開催
- ② まちづくり横浜と田村明関係の「年表作成」
- ③ まちづくり横浜に関する研究や活動の紹介
- ④ まちづくり横浜に関する貴重報告書等の選別収集とデジタル資料化

以上に付随して、

- 研究会ボランティアによる若手研究者と、市民向け「誰でも分かるまちづくり基礎用語講座」の開設運営
- 国内外に情報を発信できる、日英語による研究会HPの開設運営

研究会の主題：

- 1 .**市民的視点論**：飛鳥田一雄横浜市長を補佐した人間田村明の、まちづくりに取り組む際の視点がどうやって生まれたのか、そしてどのように成長していったのか。
- 2 .**自治体組織論**：当時の横浜市企画調整局に代表される、自立した職員による主体性をもった自治体組織はなぜ生まれ、どう発展して、そしてその後どうなったのか。
- 3 .**総合化戦略論**：プロジェクト・コントロール・アーバンデザインの3要素が、有機的に総合化されることによって、横浜のまちづくりはどのように機能し、その後どう変わりなぜ変わったのか。

研究会の進め方：

- 1 .当面の研究会テーマは、横浜市六大事業とその関連事項とする。
- 2 .ひとつのテーマについて事前に論点を整理し、その論点について話題提供ができる人材を囲み、研究会参加メンバーで意見交換を行う。
- 3 .議事録・当日資料・英文概要版を、研究会HPに掲載する。

研究会準備幹事	連絡先（田口）
五島哲男 田口俊夫	phone : 090-6030-4550
寺田芳朗 田村千尋	Email : taggame@jcom.
2013年12月18日発会	home.ne.jp

まちづくり横浜の総合化と田村明－研究会 第1回研究会のごあんない

日時：2013年12月18日（水）午後6時30分より
会場：開港記念会館 1号会議室（中区日本大通35番地）
 研究会の発会にあたり、3つのお話と懇談の場を企画いたしました。師走のあわただしい時期ですが、お気軽にご参加ください。



「田村明を偲ぶ会」資料（森日出夫写真・町口忠デザイン）から

1. 「まちづくり横浜の総合化と田村明－研究会」の発会とこれから
 昭和40年代の横浜、田村明たちが推進していた「横浜のまちづくりの成果と仕組み」を学び直し再評価して、次の世代に伝えようということで研究会をスタートしました。そして横浜のまちづくりがどのように展開したのかを「市民、自治体、総合化」の三つの主題から明らかにしようと考えています。研究会立ち上げの経緯とこれからの活動についてもお話しし、共感しあう仲間を増やしたいと望んでいます。・・・進行：五島哲男

2. 「都心部の高速道路地下化に至る組織的決定の構造と田村明」・・・発表01：田口俊夫
 飛鳥田が田村明に期待した企画調整室の初仕事は高速道路地下化であった。昭和43年2月都市計画決定された高架方式に、地元商店街が反対し、早くも5月には地下化が検討され、10月には見通しをつけ、地下鉄や公園との調整を経て、翌44年3月正式決定をしている。これについては後年、高速道路部門との確執が噂されてきた。今回その実像に迫りたいと、調査研究報告・都市計画審議会資料や新聞・市会議事録等から当時の状況をつぶさに見て、企画調整室と道路局それぞれの地下化に関わった担当者たちに取材した。多くの主体者がそれぞれの論理をもって係わり、最終的に「横浜市のあるべき案」が出来上がった情景が見えてきた。これまでベールに包まれていた、その調整過程を明らかにしたい。

3. 「田村の家族たち」・・・発表02：田村千尋
 田村明の両親は、キリスト教信者としての生涯を過ごした。家庭はその二人の「祈り」の中にあっただと思う。特に、母親の影響は「特徴のある自分づくり」に、父親からの影響は「弱者からの目線」にあったと思ふ。生きていくための推進力、判断力、決断力、は、どういところから来たのか。結局、「祈る」という行為ではなかっただろうか。兄弟のそれぞれが思いもよらぬ所で、解決の道が与えられた。どこまで客観的なお話しができるか分からないが、田村明の弟、共通の要素を受け継いだ者としてお話しをしてみたい。

4. 今回のテーマについての懇談
 今回の発表テーマについて、参加者皆さままでの懇談や情報交換ができればと考えています。閉会後に、別途懇談の場所と時間を持ちたいとも、希望しています。準備会一同。

Archive for the city planning history of Yokohama by Akira Tamura and his associates. We have decided to establish a dedicated study group of people who share a passion for the city planning history of Yokohama and the work of Akira Tamura. From the mid-1960s until the late 1970s the local government of Yokohama was a pioneer of independent and integrated city planning approaches. Those were initiated by the then mayor, Ichio Asukata, and directed by his visionary planning advisor Akira Tamura. Although the leaders of the city and its surrounding environment have changed substantially, the rationales and visions that may be gleaned from studying Yokohama's city planning history will be useful for future generations. Young people will need courageous attitudes and a sound knowledge base to approach the challenges they face in an unpredictable future. For this purpose, we will continue research activities and maintain our website as a source of knowledge and expertise to people in Japan and around the world.

研究会準備幹事
田村千尋五島哲男
田口俊夫寺田芳朗
2013年12月18日発会

連絡先（田口）
phone : 090-6030-4550
Email : taggame@jcom.home.ne.jp

まちづくり横浜の総合化と田村明－研究会 内輪メモ

「都心部高速道路の地下化」検証研究の経緯と準備会メンバーたちの感想など

- 研究会前段の半年、第1回テーマへの手探り
 - ・飛鳥田回想録（内藤恒平さんに勧められて）から、飛鳥田市長を想像する。
 - ・市史資料室紀要2「飛鳥田鳴海対談録」から、当時の市民観や意思決定の様子を知る。
 - ・市大鈴木先生の「横浜都市デザイン(室)40年史」オラビストリを読み、プロシエト・コントロール・アーバンデザインの3本柱と、鈴木先生の問う「大きなアーバンデザイン」を考える。

- もういちど施策を振り返り、聞いて調べて、「横浜と田村と総合化」を考えよう。
 - ・原点の六大事業から「高速道路の地下化逆転の経緯／その困難さと素早さ」の謎
 - ・行政OBの方達の多くが語り惜んでいる「用途別容積制度をなぜ辞めたか」の謎
 - ・などなど

- 研究会後段の半年、市心部高速道路地下化／かつて聞いていた話の検証をテーマに
 - ・調査季報BN「立神レポート」(漆原さんに勧められて)で、解説を想像する。
 - ・五島さんが「新聞発表記事の時系列」を調べ、疑問点を整理した。
 - ・田口さんが「当時 高速道路担当の立神さまにお話」を伺って、交渉経緯を整理し想像した。
 - ・田口さんが「当時 企画調整担当の長谷川さまにお話」を伺って、交渉経緯を整理し想像した。
 - ・五島さんが「都市計画手続きのベテラン窪田さまを招聘」して、当時の制度運用を類推した。
 - ・たくさんの主体が論理と矜持を持って、群像のようにからみあうプロシエトの情景が見えてきた。

- 建設省・道路公団・首都高速・市道路局・河川・交通局地下鉄・緑政局公園・企画調整室
 - ・市長・市民団体（伊勢佐木町・馬車道）などの、多主体それぞれの論理と闘争と合意形成へのプロセス（それぞれの物語り）として見えつつ、

- 状況と情報を徐々に手にしながら、地下化への意思を貫いた飛鳥田市長の役割の重要性。

- 意思決定の仕組み(権力)の起点が建設省のキーマンにあることを、混迷する状況下で見極め、水面下の交渉アプローチを重ねた田村明（と企画調整室担当）たちの、「状況を造り出して、ことを動かす」おおきな都市デザインのかたち。

- 並列する論理や計画の総合化、それは、
 - ・厳しく言えば、意思決定・権力闘争の結果論としての合意形成
 - ・優しく言えば、このデザイン・ことを動かすデザイン（もののデザインに対して）
 - ・プロシエト・コントロール・アーバンデザインを総合化する、

- それにしても、今回俯瞰できたかもしれないのは、

<ul style="list-style-type: none"> ・道路局ご担当が振り返る物語り ・企画調整室ご担当が振り返る物語り ・田村明さんが語り記した物語り ・飛鳥田市長が語り記した物語り 	<ul style="list-style-type: none"> ・田村明さんの強さと優しさの「不思議」 ・田村明さんに流れる遺伝、宣教師の矜持。 ・田村家の聖書読書会の中心に居た情景 ・プランナー田村明さんを支えた「大切」
--	--

・・・群像としての多主体の物語りが織りなす地域と計画の歴史
 このデザイン、プランニングを動かす人の向こう側に見えるもの・・・

- 第1回研究会の「掘り返し研究テーマ」を、どう構造化抽象化し、総括できるか。「だから、どうした。何を生かすか。」という学びに、仲間を増やして繋げてゆけるか。
- 次回研究会のテーマに向けて。（皆さまのご研究やご発表にも、歓迎と期待を持ちながら）「用途別容積制度の意味と顛末」をどう学び直すか。を考えはじめています。